



【視点】民主主義を蹂躪したのは誰か 教科書採択

2011.8.24 00:42

尖閣諸島を抱える石垣市など3市町からなる教科用図書八重山採択地区協議会が終わり、公民教科書に育鵬社版が選ばれた。沖縄は反戦左翼活動や教職員組合の影響力が強い地だ。今採択はこうした勢力に牛耳られたままの同県の教育界に風穴を開けたという大きな意義を持っている。

ただ、採択はこうした勢力に終始かき回され続けた。採択は本来、教育委員が教科書の内容に目を通して子供たちにふさわしい教科書を選ぶ民主主義に基づく手続きだ。ところが実態は教職員に希望を募り、彼らの意見で決まる場となっている。教職員が教科書の特徴などを調べるのは良い。だが、その一線を越えて教科書決定に口出しする。これは教育委員に与えられた権限を縛り、採択を蹂躪(じゅうりん)する非民主的な行為だ。

協議会は悪弊の改善に取り組んだ。ところがこれが「戦争美化の教科書選びへの布石」と批判され、反対運動が起きる。地元メディアまでが連日キャンペーンを繰り広げた。「教員の意見を排除するのは非民主的だ」。話はあべこべにされた。「平和教育を守る」「民主主義を守る」という名の下に妨害や圧力が公然と加えられた。

見逃せないのは県教委までが、協議会に日程の変更や委員の追加を求めたことだ。教育委員会制度の根幹を脅かす「不当な介入」だった。

誰が民主主義を蹂躪したか。教科書採択の原則を忘れて教員任せにしたり、教員の意見に縛られたりした採択は沖縄だけの話ではない。

悪弊は全国各地の採択でも繰り返されている。このこともまた見逃せない。(安藤慶太)

© 2011 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

© 2011 Microsoft | Microsoft